

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある
地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。
このコーナーでは、市が取り組む
「まちづくり」や NPO 団体などを紹介します。
問 政策推進課 ☎82・3910/IP ☎88・9094

1 10周年記念事業

わが地域じまん祭

～大王まち協～

11月17日、農林会館においてわが地域じまん祭を開催し、子どもから高齢の方まで約350人が参加しました。

この事業は、当まち協の一番大切なイベントで大王地区のいろいろな方のじまんを紹介し、また地域内をつないで人々が交流する祭りです。今回は記念事業として「和太鼓 榛」と「やまいまりな&山本信也」に出



▲迫力ある和太鼓演奏「榛」

演いただき、力強い和太鼓の演奏でスタートしました。華やかな「和」の衣装で打ち鳴らす迫力のあるパチパチはこれからのまち協活動を応援してもらっているようでした。

会場では安くて新鮮な地元野菜を買い求めて、長い列ができました。また、ステージでは特別企画の音楽ショーも始まりました。演奏を楽しむ方や古着のバザーやスマートフォン、メダカすくいなど、各コーナーに参加する大人や子どもたちの楽しそうな声も聞こえました。

参加者は焼き芋やアマゴの塩焼き、フランクフルト、焼き菓子などを食べたり、写真や工芸作品の展示などを観て楽しんでいました。



▲木工教室の親子

また、2階の木工教室では家族連れが本立てづくりに挑戦。「うまくできたよ!」「少し難しかった!」などと言いつつ、できた作品を嬉しそうに持って帰りました。

最後のお楽しみ抽選会では、当選者の名前が読み上げられると、地元産のワインや、大きなシクラメンの鉢など、賞品が当たる度に会場に拍手が沸きおこりました。
今年は例年より大勢の方が参加されてお昼過ぎまで賑やかなじまん祭になりました。

2 大人の食堂

～笠間地区まち協～

11月13日、室生上笠間の音楽の森ふれあい館において「大人の食堂」を開催しました。

この大人の食堂は、高齢者世代(65歳以上)の笠間地区住民を対象に、食事と交流の場を提供することによって、屋内にこもりがちになる生活から外に出る機会を増やし、身体機能の維持向上、また認知症などの予防を図りながら、住み慣れた土地で活気ある生活ができる地域づくりを目指した事業です。



▲美味しい料理を食べながら交流



▲頭の体操

腹いっぱいになった後は、スタッフによる「頭と体の体操」を談笑しながら楽しく行いました。

今年度は、あと3回の開催を予定しています。まだまだ手探りの事業ですが、元気な地域づくりを目指して継続していきます。

3 まち協懇談会を開催

～市内各まち協～

まち協と市長との懇談会を11月19日から27日にかけて、市内4地域で開催しました。

コロナ禍で停滞していた活動も

徐々に復活するなか、少子高齢化が進み地域活力の低下が各まち協の共通の懸案事項となっています。懇談会では、各事業の報告や情報交換、課題などを出し、今後の活動の参考にしていただきました。

また、市からは各まち協に実施していただきたい事業として、①「ウェルネスシティ事業の推進による健康なまちづくり」として健康ポイント事業等の実施、②全世代が住み続けられる地域に向け「買い物支援」への取り組み、③「移住・定住・関係人口の促進」を図るため、各地域の魅力を活かした情報発信等の実施について提案しました。



▲市長とまち協との懇談会



～コンニャク～

コンニャクの一般的な効果は、便通が良くなることや、中に含まれるグルコナンマンによって血糖値の上昇が抑えられ、コレステロールが下がるので、高脂血症にも効果が期待されることなどが挙げられます。ところが現在は栄養価が少なく、私たちの体内では分解できないためにカロリーが得られないので、ダイエットに良いということだけが注目されています。

コンニャクは、東南アジア、マレーシア地域を中心に、アフリカにも数種が分布している多年生の塊茎植物(地下茎が芋状に膨らむ植物)です。
日本の山野あるコンニャク様のサトイモ科の植物、例えばユキモチソウ、ムサシアブミなど多数の種は、すべて有毒ですので絶対に口にしないようにしてください。日本に生えていて、食べられるのはコンニャクだけです。



※当市で「薬草活用講演会」をしていたいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

薬草道通(やくそうしょうとう) 毎回「薬草」に関わる内容連載でお届けするコラムです。

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075